

スーパーマーケット販売統計調査資料

2019年11月実績 速報版(パネル270)

10月実績 確報版(パネル270)

(2019年12月20日公表)

調査資料概要

【パネル270社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016年4月実績よりパネル対象企業変更(275社→270社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮3部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカーリー、ファーストフード	
	日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム		
	一般食品	調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類		
	非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具		
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014年4月実績よりエリア区分を8地方区分による6地方に変更

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2019年12月20日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2019年11月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	87,069,117	100.0%	100.9%	99.6%
食品合計	78,625,820	90.3%	101.4%	100.2%
生鮮3部門合計	29,966,470	34.4%	101.7%	100.3%
青果	11,782,537	13.5%	100.5%	99.4%
水産	7,508,615	8.6%	102.3%	100.7%
畜産	10,675,318	12.3%	102.6%	101.1%
惣菜	8,995,490	10.3%	103.3%	102.1%
日配	17,185,869	19.7%	102.2%	100.7%
一般食品	22,477,991	25.8%	99.7%	98.8%
非食品	6,253,664	7.2%	95.5%	94.3%
その他	2,189,682	2.5%	98.2%	97.3%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	11,999,914	43	102.3%	100.9%
関東地方	32,205,489	73	101.1%	100.2%
中部地方	10,684,157	53	101.7%	99.6%
近畿地方	18,898,069	44	99.4%	98.5%
中国・四国地方	8,637,536	34	100.4%	99.0%
九州・沖縄地方	4,643,952	23	101.0%	98.4%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	607,384	45	95.6%	98.1%
4~10店舗	4,167,563	79	98.6%	99.6%
11~25店舗	9,262,074	58	100.7%	99.5%
26~50店舗	15,616,254	44	101.0%	99.6%
51店舗以上	57,415,842	44	101.0%	99.7%

集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	84,387,354
総店舗数 (店舗)	8,017	店舗平均月商 (万円)	10,861
総売場面積 (㎡)	13,326,458	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.5

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2019年12月20日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2019年10月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	88,863,160	100.0%	99.9%	98.3%
食品合計	80,784,938	90.9%	100.4%	98.7%
生鮮3部門合計	31,112,260	35.0%	99.4%	97.8%
青果	12,562,937	14.1%	97.0%	95.8%
水産	7,694,820	8.7%	99.9%	98.5%
畜産	10,854,503	12.2%	101.8%	99.9%
惣菜	9,016,360	10.1%	100.8%	99.6%
日配	17,563,463	19.8%	101.7%	99.3%
一般食品	23,092,855	26.0%	100.7%	99.2%
非食品	5,743,862	6.5%	94.7%	94.1%
その他	2,334,417	2.6%	98.0%	96.9%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	11,864,292	43	98.7%	97.6%
関東地方	33,301,322	73	100.7%	99.3%
中部地方	10,816,967	53	100.5%	98.7%
近畿地方	19,267,135	44	100.2%	98.4%
中国・四国地方	8,863,689	34	98.4%	96.8%
九州・沖縄地方	4,749,755	23	97.4%	95.0%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	613,301	45	92.8%	94.1%
4~10店舗	4,280,793	79	96.5%	97.8%
11~25店舗	9,419,685	58	99.0%	98.2%
26~50店舗	15,649,989	44	99.1%	97.7%
51店舗以上	58,899,391	44	100.6%	98.6%

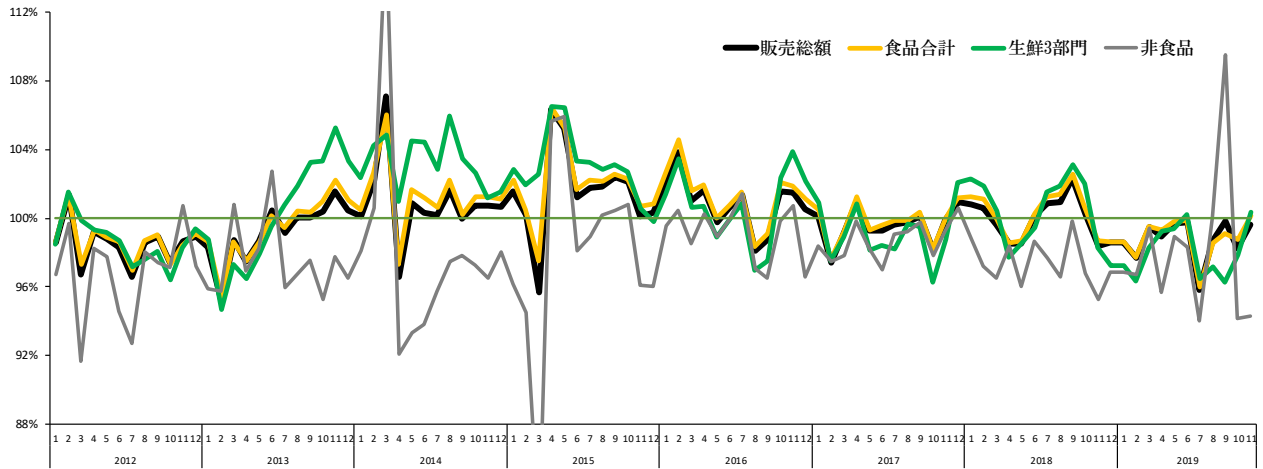
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	86,257,858
総店舗数 (店舗)	8,003	店舗平均月商 (万円)	11,104
総売場面積 (㎡)	13,277,032	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.7

※売上高は税抜金額

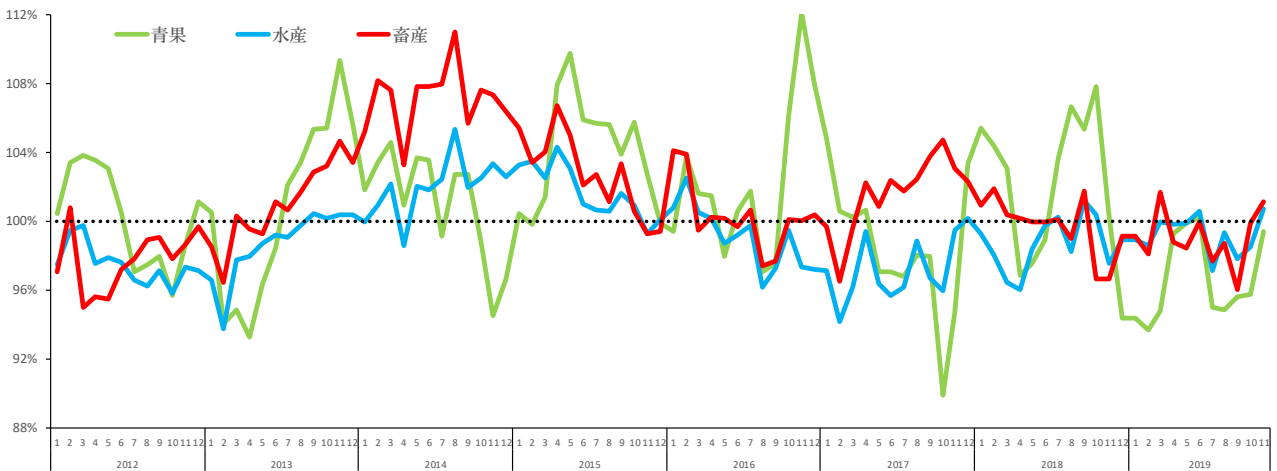
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2012年1月～

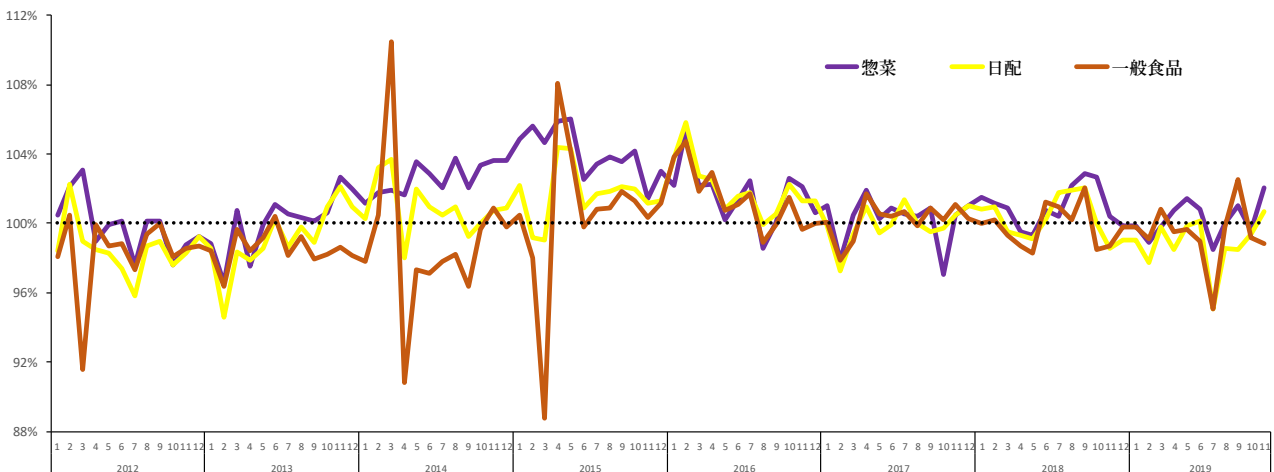
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2019年11月実績は速報値

2019年11月エリア別気候状況

気温の特徴：東・西日本と沖縄・奄美では、気温が高かった

上旬：北日本で低かった。東・西日本と沖縄・奄美で平年並だった。

中旬：東・西日本で高かった。北日本と沖縄・奄美では平年並だった。

下旬：沖縄・奄美でかなり高く、東・西日本で高かった。北日本では平年並だった。

2018年11月との比較：上旬から北日本を中心に前年より気温が低くなった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2019年11月			2018年11月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	-1.2	-0.6	-0.7	2.5	1.8	-0.2	-3.7	-2.4	-0.5
東北地方	0.1	0.9	-0.2	2.1	1.2	0.5	-2.0	-0.3	-0.7
関東甲信地方	0.3	1.9	0.7	2.1	1.6	1.3	-1.8	0.3	-0.6
北陸地方	-0.4	1.3	0.3	1.5	1.2	1.2	-1.9	0.1	-0.9
東海地方	0.4	1.5	1.3	1.7	1.5	1.1	-1.3	0.0	0.2
近畿地方	-0.1	1.2	1.0	1.5	1.0	0.5	-1.6	0.2	0.5
中国地方	0.2	1.2	0.7	0.7	0.6	0.4	-0.5	0.6	0.3
四国地方	0.1	1.0	0.9	0.5	0.1	0.1	-0.4	0.9	0.8
九州北部	0.2	0.5	2.0	0.5	0.1	0.4	-0.3	0.4	1.6
九州南部・奄美地方	0.0	0.3	2.2	0.0	-0.3	0.2	0.0	0.6	2.0

平年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

前年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

日照時間の特徴：東日本日本海側と西日本では日照時間がかかなり多かった

上旬：東日本太平洋側と西日本でかなり多く、北日本太平洋側と東日本日本海側で多かった。一方、北日本日本海側で少なかった。

中旬：東・西日本太平洋側でかなり多く、北日本太平洋側、東・西日本日本海側、沖縄・奄美で多かった。

下旬：北日本日本海側で多かった。一方、東日本太平洋側でかなり少なく、西日本太平洋側と沖縄・奄美で少なかった。

2018年11月との比較：上旬から中旬にかけてやや多く、下旬はやや少なくなった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2019年11月			2018年11月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	92	104	122	117	85	110	-25	19	12
東北地方	117	118	98	108	143	119	9	-25	-21
関東甲信地方	147	137	67	85	111	121	62	26	-54
北陸地方	139	129	113	106	127	135	33	2	-22
東海地方	156	139	68	81	109	123	75	30	-55
近畿地方	161	142	85	116	97	114	45	45	-29
中国地方	137	120	109	134	89	108	3	31	1
四国地方	145	146	78	152	115	98	-7	31	-20
九州北部	147	137	67	148	111	101	-1	26	-34
九州南部・奄美地方	147	147	74	135	125	102	12	22	-28

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~49%

降水量の特徴：北・西日本と東日本日本海側では降水量がかかなり少なかった

上旬：東・西日本でかなり少なく、北日本と沖縄・奄美で少なかった。

中旬：東日本日本海側で多かった一方、西日本日本海側で少なかった。

下旬：東日本太平洋側と沖縄・奄美で多かった。一方、北・東日本日本海側でかなり少なく、北日本太平洋側で少なかった。

2018年11月との比較：上旬はかなり降水量が少なく、中旬から下旬にかけて前年よりやや多くなった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2019年11月			2018年11月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	54	109	23	72	61	82	-18	48	-59
東北地方	20	88	50	77	25	40	-57	63	10
関東甲信地方	10	71	256	95	23	50	-85	48	206
北陸地方	25	112	27	31	56	0	-6	56	27
東海地方	1	74	101	147	6	11	-146	68	90
近畿地方	10	61	23	65	23	27	-55	38	-4
中国地方	18	38	26	31	0	29	-13	38	-3
四国地方	3	34	58	22	58	87	-19	-24	-29
九州北部	3	60	60	59	0	42	-56	60	18
九州南部・奄美地方	3	58	204	29	134	123	-26	-76	81

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~49%

気象庁 報道発表資料「11月の気候」参照

平年値は過去30年（1981年~2010年）の平均

スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2019年12月調査結果（11月実績）
（2019年12月20日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

12月調査（11月実績）結果概況

景気判断DIは現状・見通しともに改善をみせる

11月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI現状判断は、前月から+4.4の43.8、見通し判断は前月から+4.7の42.4と共に改善をみせ、40台まで回復した。

経営動向調査では、売上高DI、収益DI共にマイナス幅を縮小し一桁マイナス水準まで上昇した。生鮮食品の仕入れ原価が上昇傾向にあり、客単価が上昇したことが影響している。

カテゴリー動向調査では、徐々に冬物商材に動きがでてきたことで各生鮮品、好天に恵まれ行楽需要が高まり惣菜DIはプラスとなった。一方、酒類に反動のあった一般食品、雑貨や日用品に反動のあった非食品DIは大きなマイナスとなった。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査はいずれのDIも悪化をみせており、消費税率引き上げ直後の落ち込みからはやや回復をみせている。ただし現時点では、これまでの下降トレンドに変化の兆しがみられたとまでは、判断することは難しい。（長期傾向についてはp11参照）

10月に消費税率の引き上げが実施され消費の冷え込みが警戒されるなか、軽減税率制度やキャッシュレス・ポイント還元事業などの負担軽減措置が実施されており、消費動向の変化が見えにくい状況となっている。特に世帯や世代間で影響が異なるのが今回の引き上げ後の特徴であり、スーパーマーケットにとっては難しい対応に迫られている。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月： 43.8 (+4.4) 前月：39.4	消費者購買意欲DI 当月： 42.5 (+3.1) 前月：39.4	周辺地域 競合状況DI 当月： 40.3 (+1.5) 前月：38.8	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 42.4 (+1.0) 前月：41.4
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月： 42.4 (+4.7) 前月：37.7	消費者購買意欲DI 当月： 41.6 (+2.7) 前月：38.9	周辺地域 競合状況DI 当月： 39.9 (+1.5) 前月：38.4	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 42.5 (+1.5) 前月：41.0
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月： -6.3 (+8.9) 前月：-15.2	客単価DI 当月： 3.1 (+5.0) 前月：-1.9	来客数DI 当月： -11.1 (+3.9) 前月：-15.0	
収益DI 当月： -5.7 (+6.7) 前月：-12.4	販売価格DI 当月： 1.6 (+3.1) 前月：-1.5	生鮮品仕入原価DI 当月： 3.4 (+3.7) 前月：-0.3	食品仕入原価DI 当月： 2.8 (-0.8) 前月：3.6

カテゴリー動向

青果DI 当月： -6.8 (+11.5) 前月：-18.3	水産DI 当月： 4.6 (+12.6) 前月：-8.0	畜産DI 当月： 0.2 (+6.0) 前月：-5.8	
惣菜DI 当月： 3.4 (+6.6) 前月：-3.2	日配DI 当月： -1.0 (+6.6) 前月：-7.6	一般食品DI 当月： -10.0 (-2.1) 前月：-7.9	非食品DI 当月： -13.8 (+3.3) 前月：-17.1

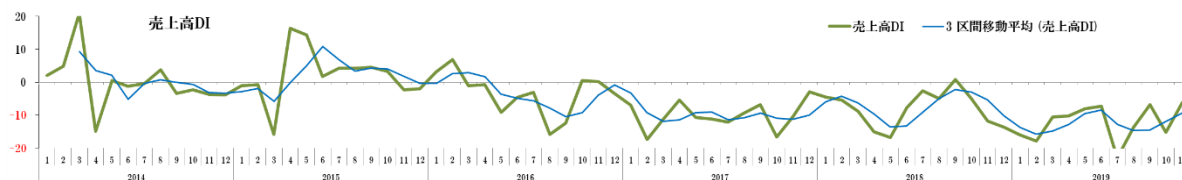
※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

ややマイナス幅を縮小するも低迷続く

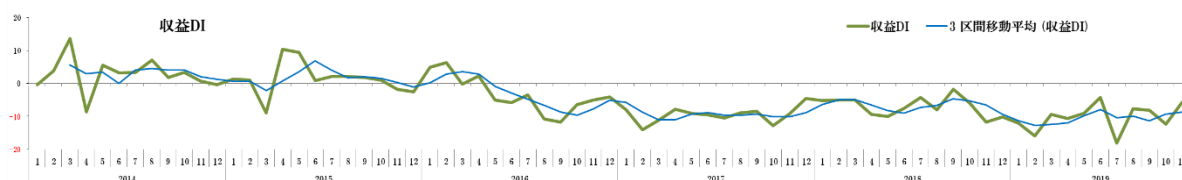
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	21.2	37.5	25.0	13.6	2.7	-15.2
売上高 (当月)	9.2	36.2	28.3	23.0	3.3	-6.3



2. 収益DI

ややマイナス幅を縮小するも低迷続く

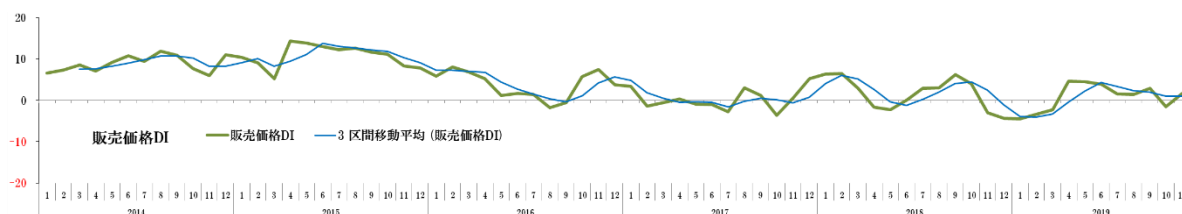
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	14.8	39.6	28.6	14.3	2.7	-12.4
収益 (当月)	5.4	36.9	36.9	16.8	4.0	-5.7



3. 販売価格DI

小幅に上昇しプラス水準を回復

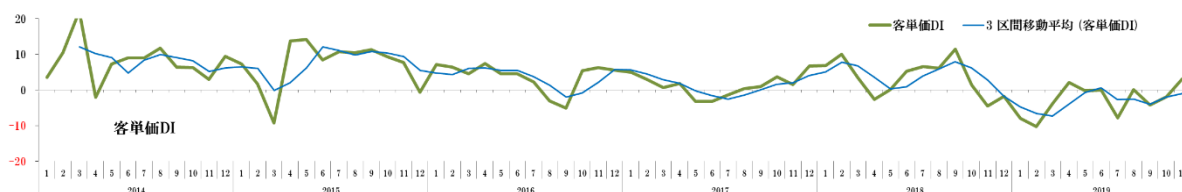
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	1.6	22.8	56.5	17.9	1.1	-1.5
販売価格 (当月)	0.7	13.2	65.8	19.7	0.7	1.6



4. 客単価DI

小幅に上昇しプラス水準を回復

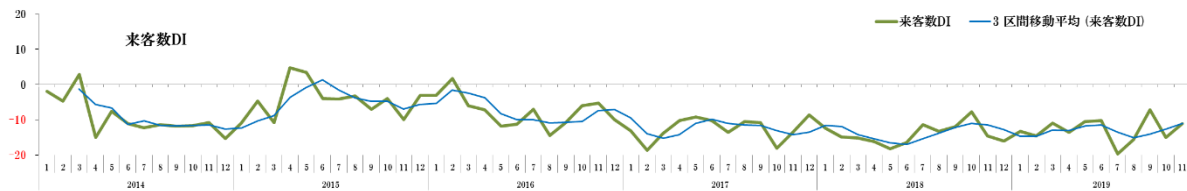
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	2.2	30.4	41.3	25.0	1.1	-1.9
客単価 (当月)	1.3	20.4	44.7	31.6	2.0	3.1



5. 来客数 DI

二桁水準での低迷が続く

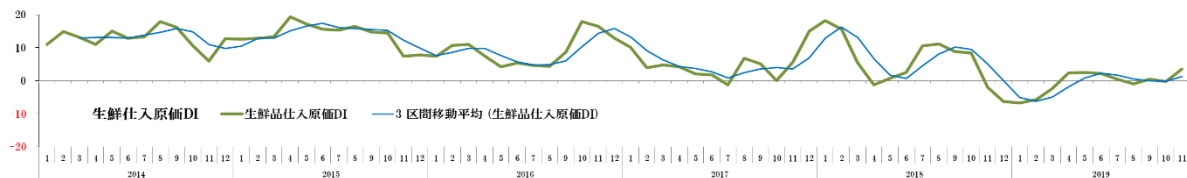
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	16.8	41.1	29.7	10.3	2.2	-15.0
来客数 (当月)	10.6	41.1	32.5	13.9	2.0	-11.1



6. 生鮮仕入原価 DI

小幅に上昇しプラス圏を回復

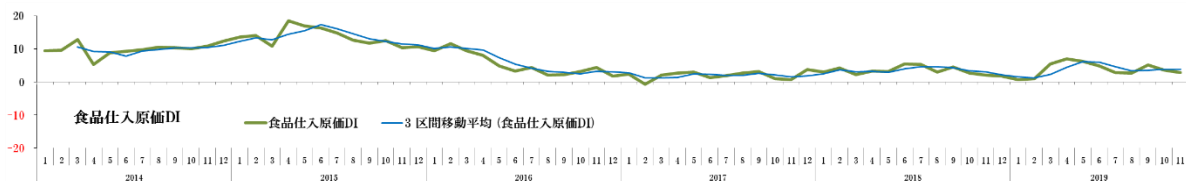
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	2.8	18.3	57.2	20.6	1.1	-0.3
生鮮仕入原価 (当月)	0.7	15.1	56.8	24.7	2.7	3.4



7. 食品仕入原価 DI

プラス圏で底堅い推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	3.3	10.6	58.3	23.9	3.9	3.6
食品仕入原価 (当月)	3.3	10.7	58.7	26.0	1.3	2.8

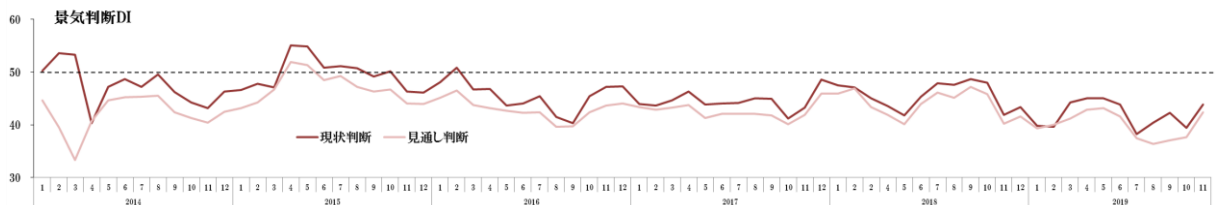


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状、見通しとも改善をみせ、水準は40台を回復

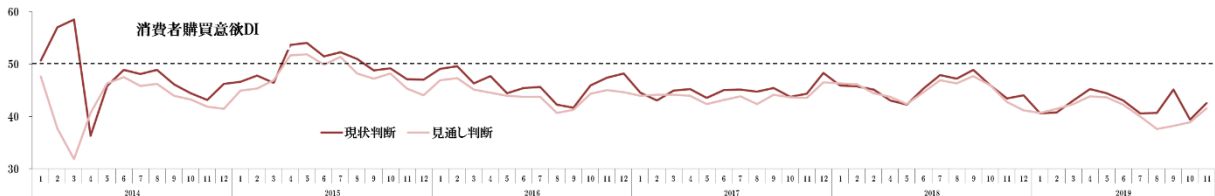
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	4.4	39.0	51.6	4.4	0.5	39.4
【現状】景況判断 (当月)	3.2	33.8	48.7	13.0	1.3	43.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	4.4	43.7	48.6	3.3	0.0	37.7
【見通し】景況判断 (当月)	2.6	36.4	50.0	11.0	0.0	42.4



2. 消費者購買意欲 DI

現状、見通しとも改善をみせ、水準は40台を回復

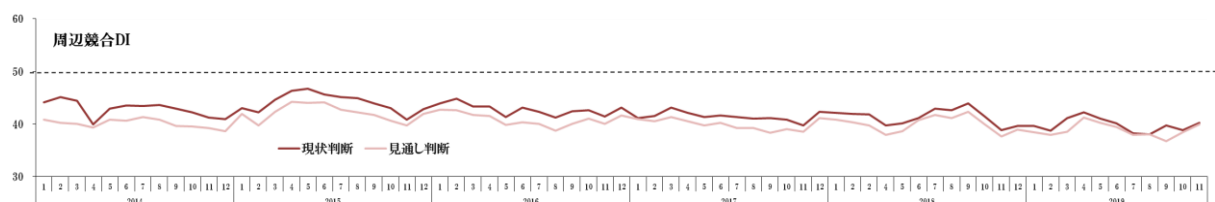
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	3.8	40.1	51.1	4.4	0.5	39.4
【現状】購買意欲 (当月)	2.6	30.5	62.3	3.2	1.3	42.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	2.2	42.1	53.6	2.2	0.0	38.9
【見通し】購買意欲 (当月)	2.6	32.5	61.0	3.9	0.0	41.6



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通しとも小幅に改善をみせる

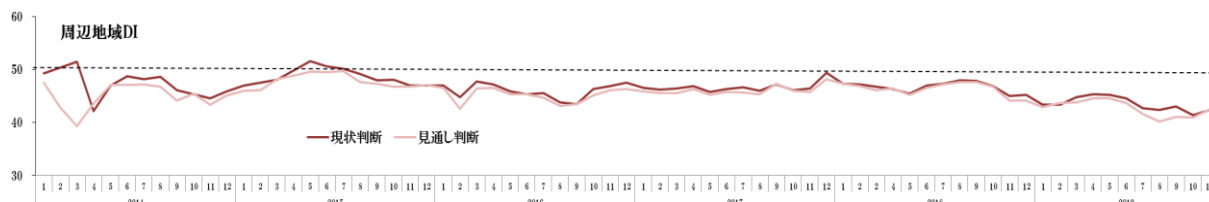
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	8.2	31.1	57.9	2.7	0.0	38.8
【現状】競合状況 (当月)	5.2	30.5	62.3	1.9	0.0	40.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	7.1	34.4	56.3	2.2	0.0	38.4
【見通し】競合状況 (当月)	5.2	31.8	61.0	1.9	0.0	39.9



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状、見通しとも小幅に改善をみせる

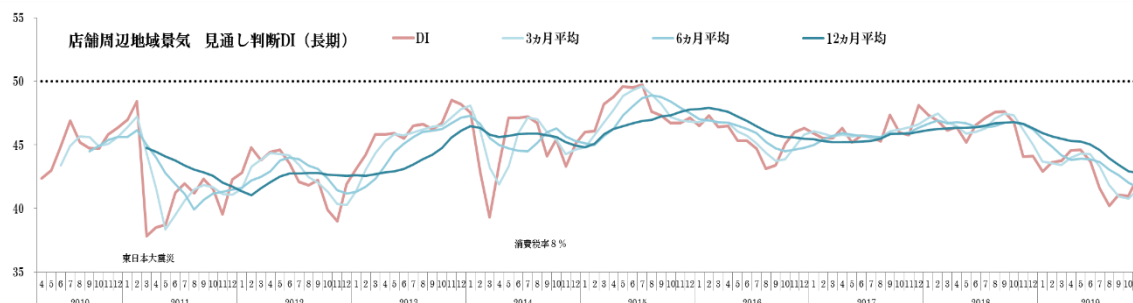
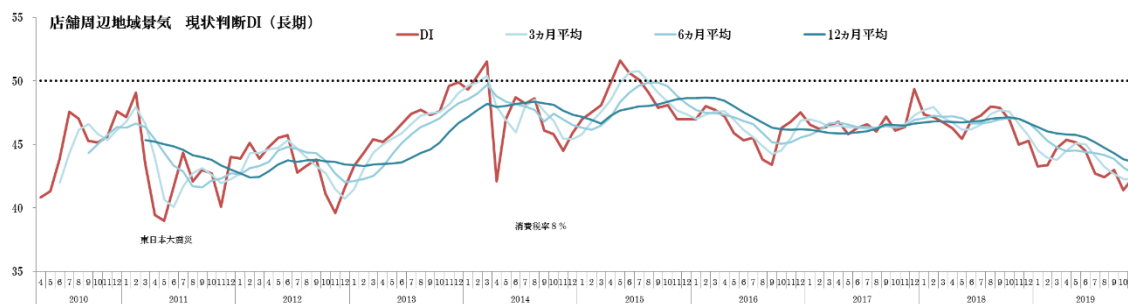
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	2.2	31.1	65.6	1.1	0.0	41.4
【現状】地域景気 (当月)	3.2	24.7	71.4	0.6	0.0	42.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	1.1	34.4	63.9	0.6	0.0	41.0
【見通し】地域景気 (当月)	2.6	26.1	69.9	1.3	0.0	42.5



・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

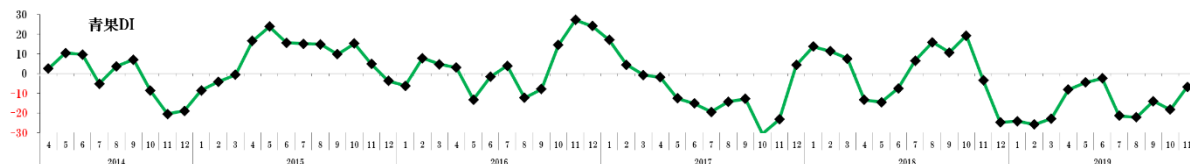
しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げ、19年10月には現状判断DIは40.9まで低下した。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-6.8（やや不調）

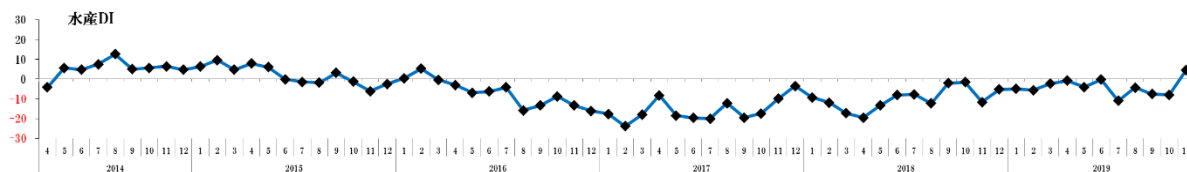
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果(前月)	22.2	42.0	25.0	8.5	2.3	-18.3
青果(当月)	12.9	30.6	32.0	19.7	4.8	-6.8



葉物類は前年相場安からは回復したものの、青果相場安傾向が続いており、単価が伸び悩み苦戦した。平年より高い気温で推移した地域が多く鍋物用食材の動きは悪かったが、下旬以降回復傾向をみせた。果物類では柿、ブドウなどが好調、リンゴは好不調分かかれているが、みかんは前年好調からの反動も加わり不調となった。輸入果物では、バナナやブドウなどが好調となった。

2. 水産DI：4.6（やや好調）

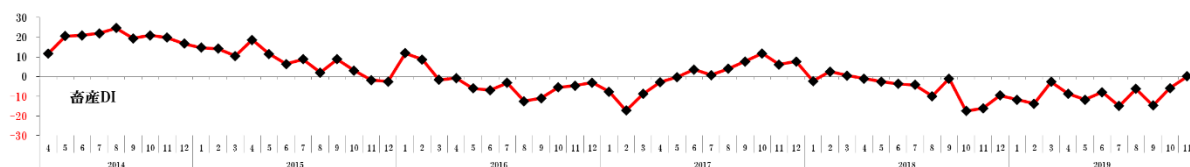
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産(前月)	9.1	39.8	29.0	18.2	4.0	-8.0
水産(当月)	6.8	19.7	31.3	32.7	9.5	4.6



サンマの不漁による影響を受けているが、11月まで販売期間がずれ込んだことで売上を伸ばした店舗もみられた。鍋物用食材（牡蠣やタラなど）の動きは地域の気候条件により好不調まちまちの状況となった。刺身類はマグロを中心に好調となった。ブリや秋鮭、輸入サーモンが伸長しているとのコメントが多くみられた。

3. 畜産DI：0.2（やや好調）

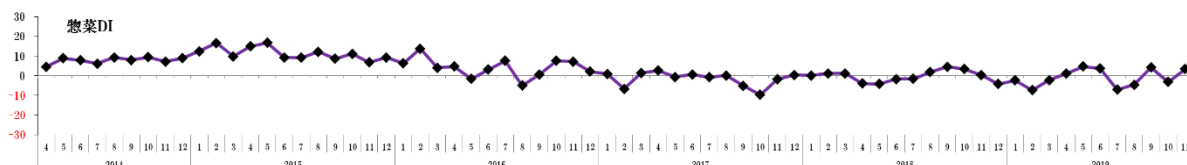
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産(前月)	8.5	36.9	27.3	23.9	3.4	-5.8
畜産(当月)	5.5	28.8	33.6	24.0	8.2	0.2



鍋物用肉は地域の気候条件により好不調まちまちの状況となった。牛肉は相場が上昇しており、輸入牛を訴求する店舗がみられた。総じてしゃぶしゃぶ用肉は動きがよかったが、CSF（豚コレラ）の影響で国産豚が不振となった店舗もみられた。鶏肉は相場が安定しており好調となった店舗が多い。加工肉は不調とする店舗が多かった。

4. 惣菜DI：3.4（やや好調）

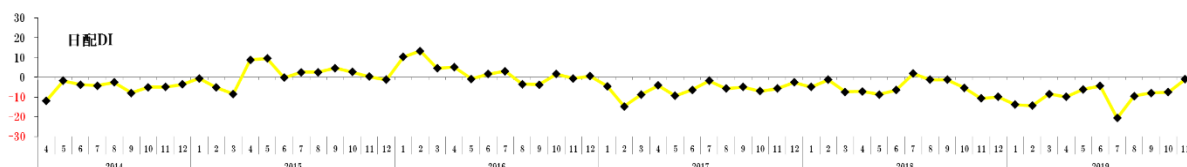
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	10.3	24.7	38.5	20.1	6.3	-3.2
惣菜（当月）	8.3	17.9	36.6	26.2	11.0	3.4



中旬まで好天の日が多く、行楽需要により米飯類、唐揚げの動きがよくやや好調となった。メニューのリニューアルや、季節食材を使ったメニュー提案などの取り組みが成果をあげている店舗もみられた。気温が低下した地域では、ホットメニューの動きがよくなった。

5. 日配DI：-1.0（やや不調）

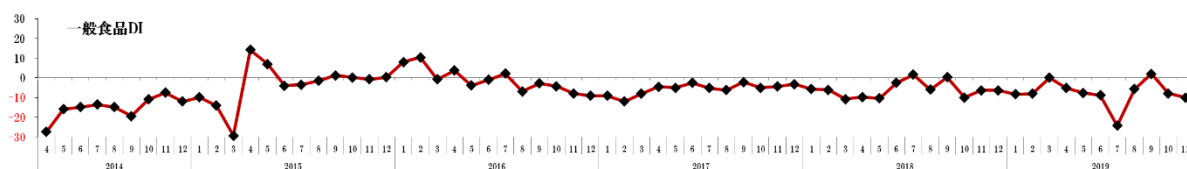
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	12.0	31.4	36.0	16.0	4.6	-7.6
日配（当月）	6.2	29.5	34.2	22.6	7.5	-1.0



前年不振だった鍋物やおでん商材、また麺類などのホット商材はやや持ち直したものの、気温により動きは良くなかった。前年特需となっていた納豆や梅干しには反動減もみられた。乳製品は、バターの入荷状況やインフルエンザ対策ヨーグルトの動向により好不調が分かれている。パン類は好調とする店舗が多かった。

6. 一般食品：-10.0（やや不調）

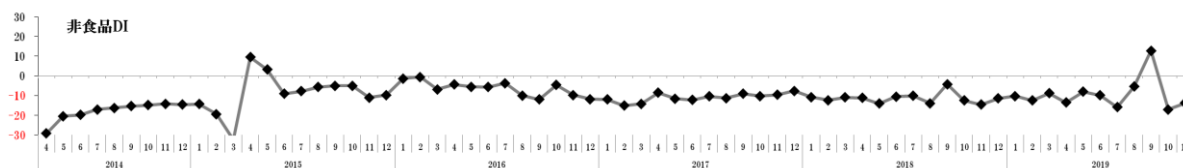
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	9.0	35.6	36.7	15.3	3.4	-7.9
一般食品（当月）	8.8	39.5	36.7	12.9	2.0	-10.0



鍋用調味料や麺類やシチューなどホット商材の動きが悪かった。前年特需のあったサバ缶や食油に反動がみられた。ビールを中心に酒類には買いため需要の反動減がみられた。ボジョレーヌーボーは売上が年々減少している店舗が多い。周辺店舗との価格競争の厳しさを指摘するコメントがみられた。

7. 非食品 DI：-13.8（不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	27.0	31.0	28.2	10.9	2.9	-17.1
非食品（当月）	16.6	38.6	31.7	9.7	3.4	-13.8



やや回復傾向もみられはじめているが、引き続き駆け込み需要からの反動減が続いており、不調となった。マスクなどのインフルエンザ対策用品は伸長している店舗が多い。ホームセンターやドラッグストアなどとの競合の影響が大きく、日常使用する家庭用品を中心に販売の低迷が続いている。

カテゴリ別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20 好調：20 ～ 10 やや好調：10 ～ 0
 やや不調：0 ～ -10 不調：-10 ～ -20 かなり不調：-20～

2019年12月調査（11月実績）キーワード TOP3

1. 平年より高く、前年より低い気温
2. 青果相場安
3. 駆け込み需要の反動（酒、非食品）

（参考）2018年12月調査（11月実績）キーワード TOP3

1. 平年・前年より高い気温
2. 青果相場下落
3. 客数減（祝日と土曜日が重なる）

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

11月実績速報版 154社
 10月実績確報版 184社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp